

---

## 第2章 大淀町の子どもを取り巻く現状

---

# 第1節 人口・世帯の状況

## 1. 総人口の推移

総人口の推移をみると、昭和60年以降増加傾向にありましたが、平成12年以降は増減を繰り返しながらほぼ横ばいに推移し、平成21年は20,216人となっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向となっており、生産年齢人口（15～64歳）は、増加傾向にあったものの平成17年以降は増減を繰り返しながらほぼ横ばいとなっています。

年少人口は昭和60年以降減少傾向で推移しており、年少人口割合は21.2%から13.2%に減少しています。

＜年齢3区分別人口の推移＞

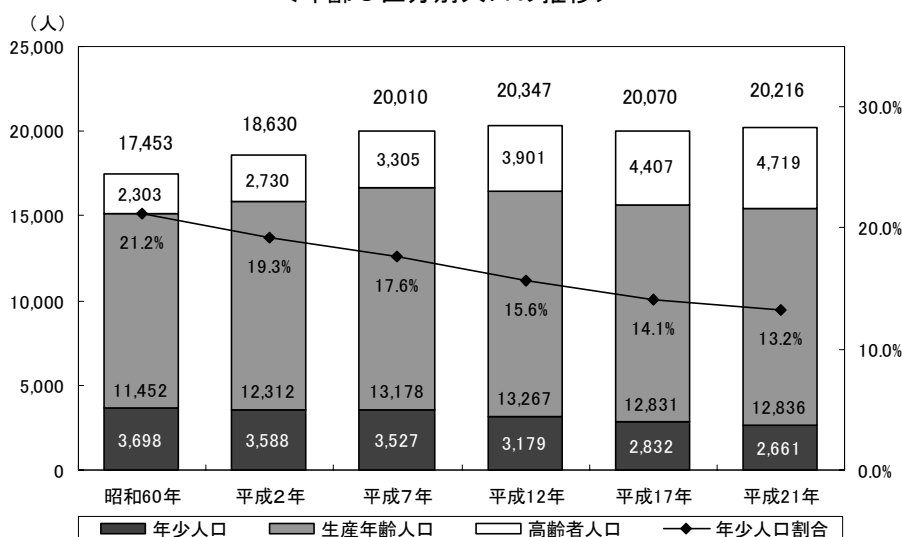
(単位: 人、%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成21年 (参考)
総人口(人)	17,453	18,633	20,015	20,376	20,070	20,216
年少人口(0～14歳)	3,698	3,588	3,527	3,179	2,832	2,661
構成比(%)	21.2	19.3	17.6	15.6	14.1	13.2
生産年齢人口(15～64歳)	11,452	12,312	13,178	13,267	12,831	12,836
構成比(%)	65.6	66.1	65.8	65.1	63.9	63.5
高齢者人口(65歳以上)	2,303	2,730	3,305	3,901	4,407	4,719
構成比(%)	13.2	14.7	16.5	19.1	22.0	23.3

注：国勢調査は年齢不詳を含むため、  
合計と内訳が一致しない

資料：国勢調査、平成21年のみ住民基本台帳（3月末）

＜年齢3区分別人口の推移＞



注：国勢調査は年齢不詳を含むため、  
合計と内訳が一致しない

資料：国勢調査、平成21年のみ住民基本台帳  
(3月末)

## 2. 児童人口の状況

### (1) 児童人口の推移

児童人口（0～17歳）の推移をみると、減少傾向となっており、平成21年は3,310人となっています。

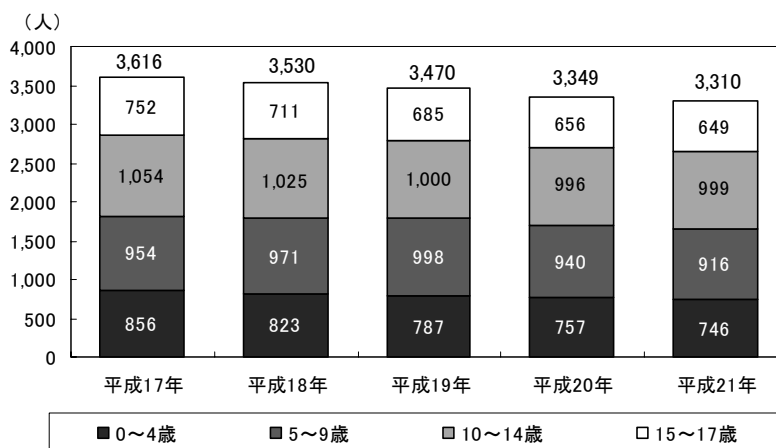
<児童人口の推移>

(単位：人)

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
総児童人口(人)	3,616	3,530	3,470	3,349	3,310
0～4歳	856	823	787	757	746
5～9歳	954	971	998	940	916
10～14歳	1,054	1,025	1,000	996	999
15～17歳	752	711	685	656	649

資料：住民基本台帳（10月1日）、平成21年のみ3月末

<児童人口の推移>

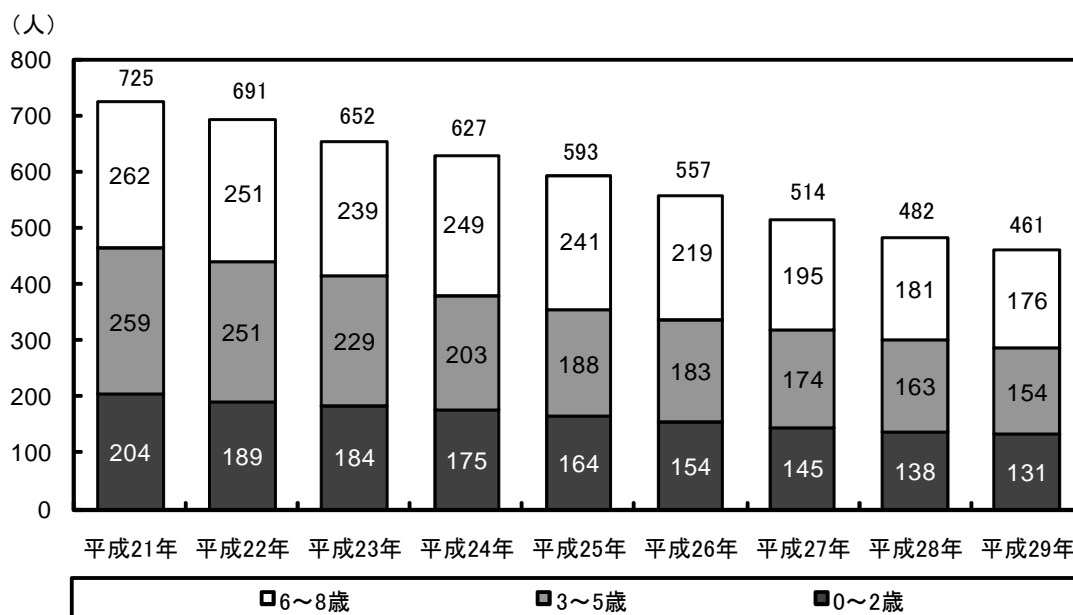


資料：住民基本台帳（10月1日）、平成21年のみ3月末

## (2) 児童人口の推計

平成16年から平成20年までの住民基本台帳人口の実績を基にセンサス変化率法により児童人口推計を行いました。大淀町の8歳以下の子ども人口は、今後平成26年にかけてさらに168人の減少が予想されます。

＜児童人口の推移＞



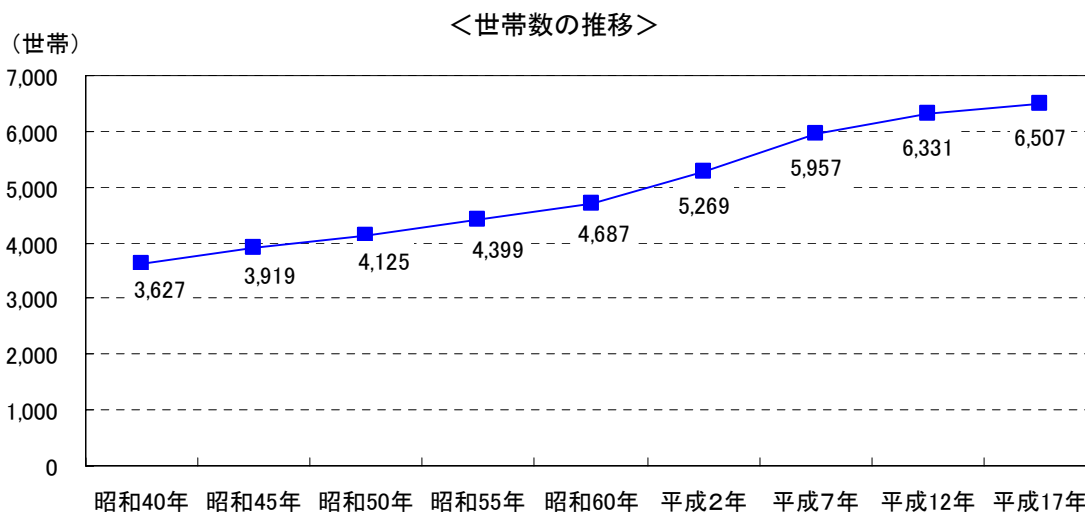
(単位：人)

	平成21年 (推計)	平成22年 (推計)	平成23年 (推計)	平成24年 (推計)	平成25年 (推計)	平成26年 (推計)	平成27年 (推計)	平成28年 (推計)	平成29年 (推計)
0歳	64	62	58	55	51	48	46	44	42
1歳	63	64	62	58	55	51	48	46	44
2歳	77	63	64	62	58	55	51	48	46
3歳	89	76	62	63	61	57	54	51	48
4歳	85	90	77	63	64	62	58	55	51
5歳	85	85	90	77	63	64	62	58	55
6歳	78	82	82	87	75	61	62	60	56
7歳	94	77	82	82	86	74	60	61	59
8歳	90	92	75	80	80	85	72	59	60
0～2歳	204	189	184	175	164	154	145	138	131
3～5歳	259	251	229	203	188	183	174	163	154
6～8歳	262	251	239	249	241	219	195	181	176
計	725	691	652	627	593	557	514	482	461

### 3. 世帯の状況

#### (1) 世帯数の推移

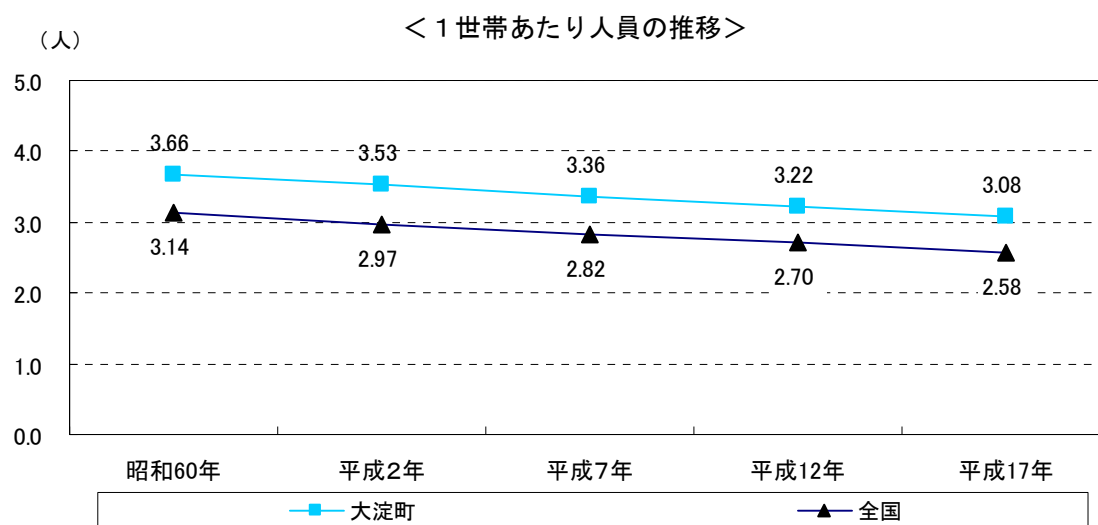
世帯数の推移をみると、昭和40年以降年々増加傾向にあり、平成17年では2,880増の6,507世帯となっています。



資料: 国勢調査

#### (2) 1世帯あたり人員の推移

大淀町の1世帯あたり人員の推移をみると、昭和60年以降減少傾向にあり、平成17年では0.58ポイント減の3.08人となっていますが、全国平均と比較すると、0.5ポイント程度上回っています。

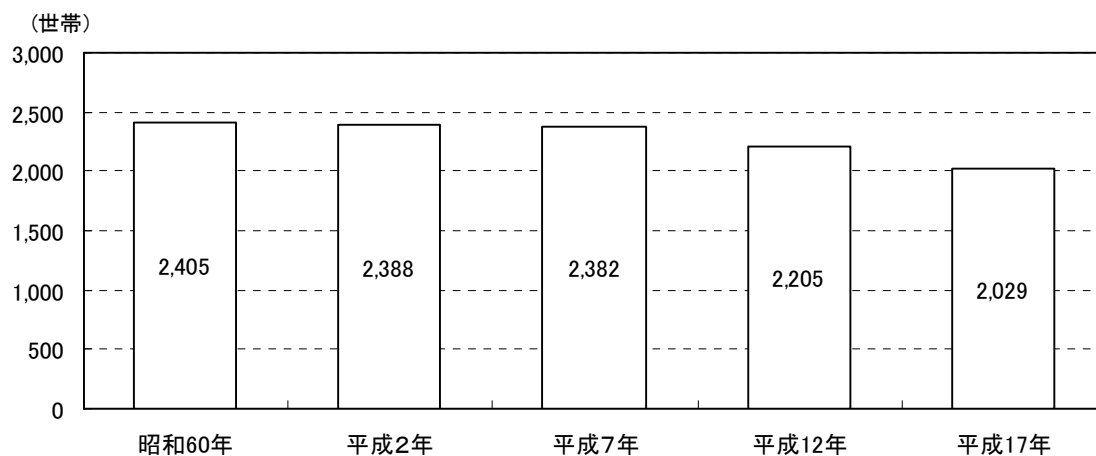


資料: 国勢調査

### (3) 18歳未満の子どものいる世帯数の推移

18歳未満の子どものいる世帯数の推移をみると、昭和60年以降減少傾向にあり、平成17年には376減の2,029世帯となっています。

<18歳未満の子どものいる世帯数の推移>



資料：国勢調査

## 4. 自然動態及び社会動態

出生数と死亡数の差による自然動態をみると、平成13年は死亡数に対して出生数が多く、自然増となっていました。平成14年以降には自然減となっています。

一方、転入者数と転出者数の差による社会動態をみると、平成16年まで社会増と社会減を繰り返していましたが、平成17年以降は転入者数に対して転出者数が多く、各年ともに社会減となっています。

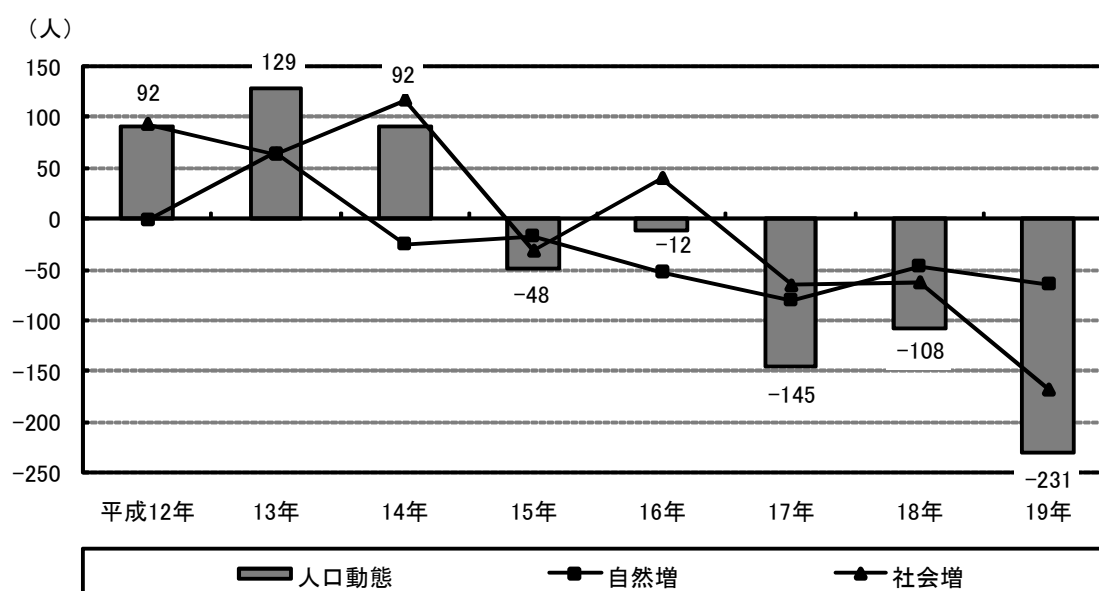
自然動態と社会動態の差による人口動態をみると、平成15年以降、マイナスとなっています。

＜自然動態及び社会動態の推移＞

(単位：人)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
出生数	150	178	165	155	123	145	164	141
死亡数	151	113	190	172	175	225	210	205
転入者数	865	837	814	724	675	645	596	520
転出者数	772	773	697	755	635	710	658	687

＜人口動態の推移＞



資料：大淀町

## 5. 昼夜間人口の推移

昼夜間人口の推移をみると、平成 17 年は平成 12 年より減少し、昼間人口は 17,966 人、夜間人口は 20,070 人となっています。

昼間人口率をみると、15 歳未満と 65 歳以上では、ほぼ 100%となっています。15～24 歳は 60%台となっており、通学等での町外流出が大きいことがうかがえます。平成 12 年と比較すると、25～29 歳は 93.3%から 10.3ポイント減で 83.0%、逆に 40～44 歳は 83.1%から 8.2ポイント増で 91.3%となっています。

### <年齢別昼夜間人口>

(単位：人)

	平成 12 年			平成 17 年		
	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼間人口率 (%)	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼間人口率 (%)
15 歳未満	3,178	3,179	100.0%	2,839	2,832	100.2%
15～19 歳	899	1,354	66.4%	794	1,212	65.5%
20～24 歳	805	1,224	65.8%	670	1,117	60.0%
25～29 歳	1,110	1,190	93.3%	910	1,096	83.0%
30～34 歳	992	1,091	90.9%	1,146	1,213	94.5%
35～39 歳	1,126	1,245	90.4%	1,038	1,162	89.3%
40～44 歳	1,174	1,412	83.1%	1,137	1,245	91.3%
45～49 歳	1,345	1,634	82.3%	1,123	1,374	81.7%
50～54 歳	1,374	1,637	83.9%	1,362	1,582	86.1%
55～59 歳	1,091	1,264	86.3%	1,402	1,602	87.5%
60～64 歳	1,165	1,216	95.8%	1,166	1,228	95.0%
65～69 歳	1,171	1,206	97.1%	1,156	1,173	98.6%
70～74 歳	1,052	1,073	98.0%	1,087	1,095	99.3%
75～79 歳	766	763	100.4%	946	951	99.5%
80～84 歳	481	480	100.2%	634	634	100.0%
85 歳以上	379	379	100.0%	556	554	100.4%
合計	18,108	20,347	89.0%	17,966	20,070	89.5%

資料：国勢調査

※ 昼間人口率＝昼間人口／夜間人口×100



## 6. 結婚の状況

### (1) 結婚・離婚件数の推移

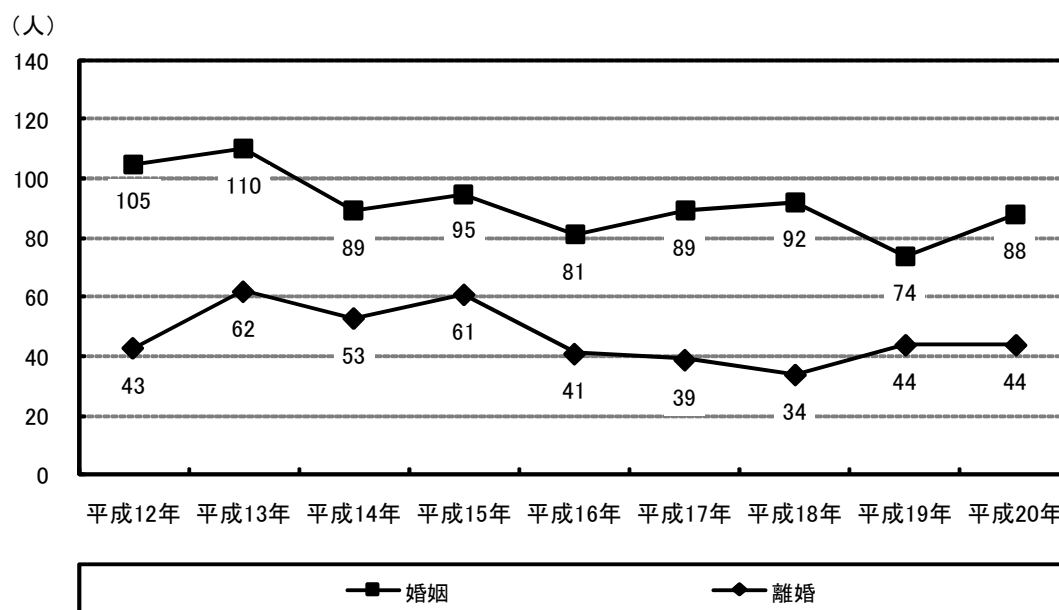
結婚・離婚件数をみると、平成20年では結婚が88件、離婚が44件となっています。

<結婚・離婚件数の推移>

(単位：件)

	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年
婚姻 件数	105	110	89	95	81	89	92	74	88
離婚 件数	43	62	53	61	41	39	34	44	44

<結婚・離婚件数の推移>



資料：大淀町

## (2) 未婚率の状況

大淀町の性別・年齢別未婚率の推移をみると、男性では各年齢区分で未婚率が上昇しています。特に30～34歳では平成17年が40.3%と平成2年より14.9ポイント上昇しています。

また、女性も同様に各年齢区分で未婚率が上昇しており、特に25～29歳では平成17年が58.0%と平成2年より19.0ポイント上昇しています。このことから、全体的に未婚化・晩婚化が進んでいることがうかがえます。

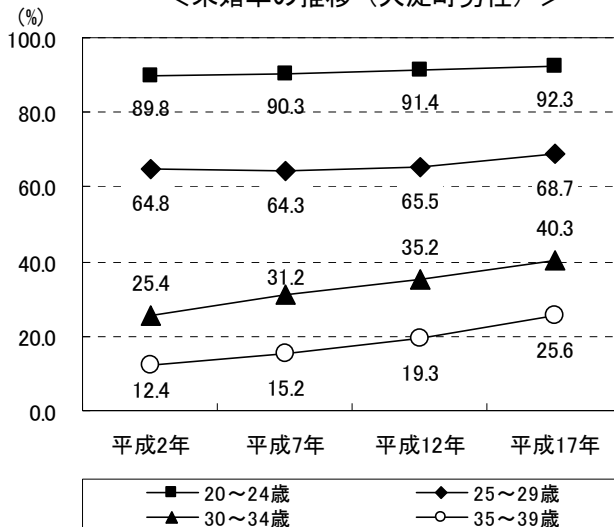
平成17年の全国平均の未婚率と比較すると、20～24歳の女性を除くすべての年齢区分の男女で大淀町の割合が低くなっています。

＜未婚率の推移＞

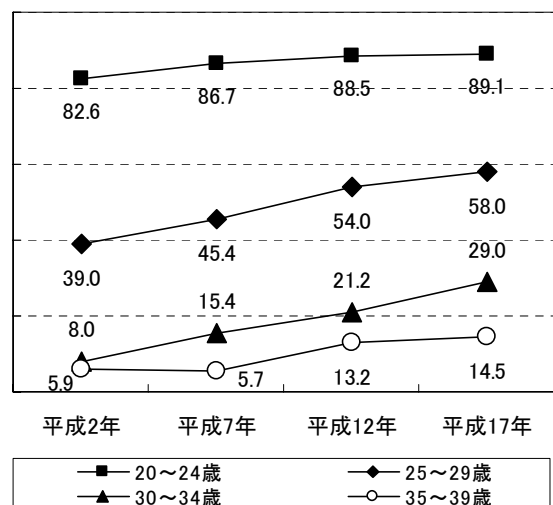
(単位：%)

		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平成2年	全 国	92.2	85.0	64.4	40.2	32.6	13.9	19.0	7.5
	大 淀 町	89.8	82.6	64.8	39.0	25.4	8.0	12.4	5.9
平成7年	全 国	92.6	86.4	66.9	48.0	37.3	19.7	22.6	10.0
	大 淀 町	90.3	86.7	64.3	45.4	31.2	15.4	15.2	5.7
平成12年	全 国	92.9	87.9	69.3	54.0	42.9	26.6	25.7	13.8
	奈 良 県	94.8	73.0	44.1	25.9	91.8	63.5	32.2	17.4
	大 淀 町	91.4	88.5	65.5	54.0	35.2	21.2	19.3	13.2
平成17年	全 国	93.4	88.7	71.4	59.0	47.1	32.0	30.0	18.4
	奈 良 県	94.2	69.6	37.6	18.8	91.1	56.6	25.0	11.3
	大 淀 町	92.3	89.1	68.7	58.0	40.3	29.0	25.6	14.5

＜未婚率の推移（大淀町男性）＞



＜未婚率の推移（大淀町女性）＞



資料：国勢調査

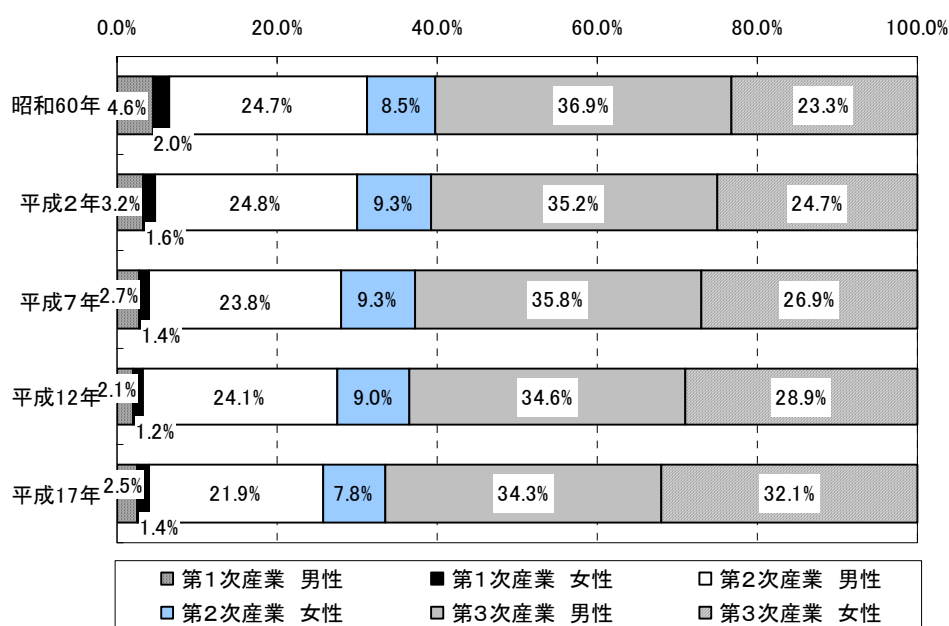
## 第2節 就業の状況

### 1. 産業別就業者率の推移

産業別就業者率の推移をみると、平成17年の第1次産業就業者の割合が3.9%、第2次産業就業者の割合が29.7%、第3次産業就業者の割合66.4%となっています。昭和60年と比較すると、第1次産業就業者の割合が2.7ポイント、第2次産業就業者の割合が3.5ポイントとそれぞれ減少し、第3次産業就業者の割合は6.2ポイント増加しています。

男女別でみると、第3次産業就業者の女性の割合が32.1%と昭和60年より8.8ポイント増加となっています。

＜産業大分類別性別就業者率の推移＞

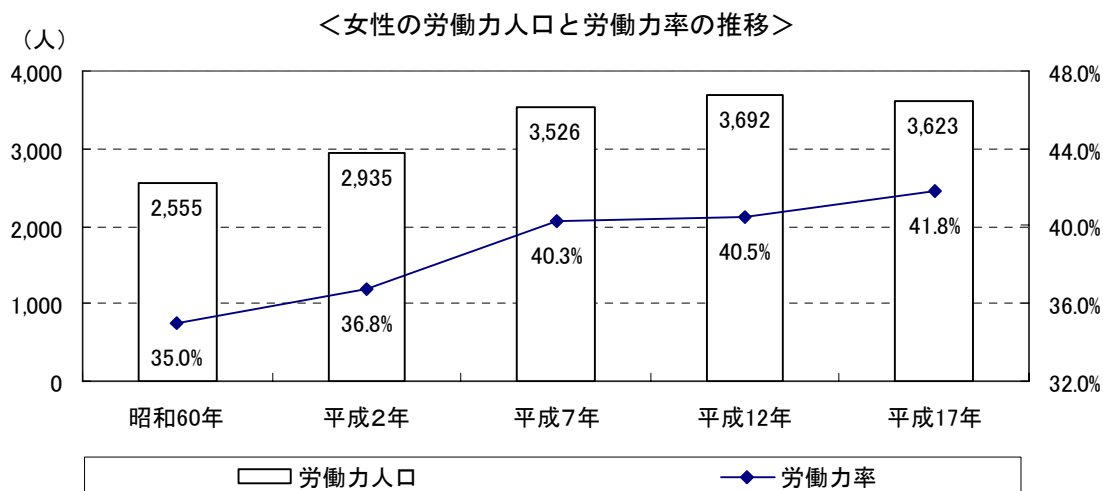


資料：国勢調査

## 2. 女性の就労状況

### (1) 女性の労働力人口と労働力率の推移

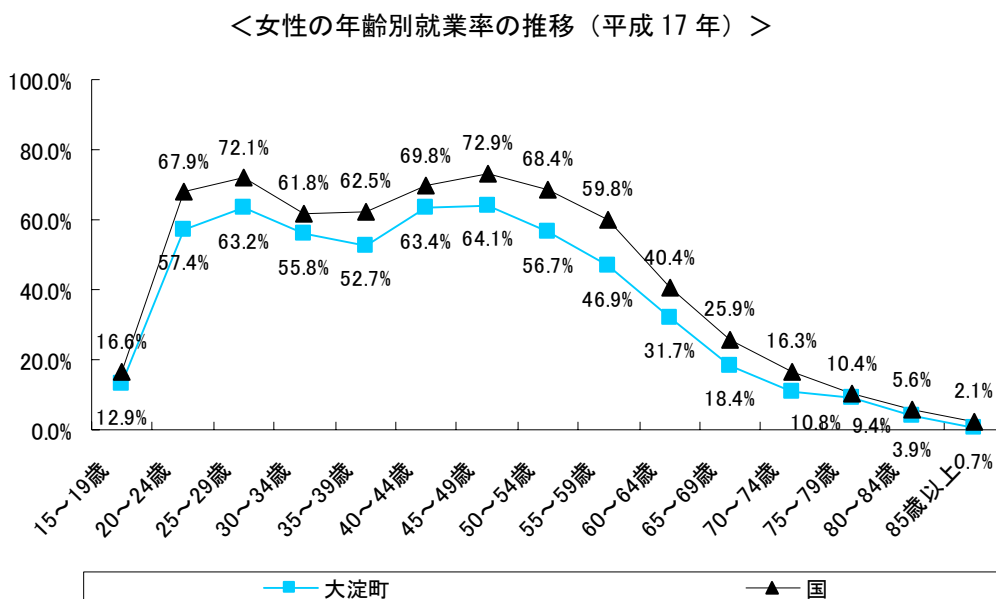
女性の労働力人口の推移をみると、昭和 60 年以降増加傾向にありましたが、平成 17 年は若干減少がみられ、3,623 人となっています。労働力率をみると、昭和 60 年以降増加傾向にあり、平成 17 年は 41.8%となっています。



資料：国勢調査

### (2) 女性の年齢別就業率

女性の年齢別就業率は、各年代で国を下回っていますが、特徴としては国と同様に子育て期にあたる 30 歳代前半から 30 歳代後半にかけて低下し、その後上昇する“M字カーブ”を描いています。



資料：国勢調査

## 第3節 保育・教育等の状況

### 1. 認可保育所の状況

#### (1) 認可保育所の状況

認可保育所の状況をみると、平成21年度の設置数は公立3園、民間2園で、入所児童数は437人となっています。待機児童については、十分な定員を確保していることから出ていません。

#### <認可保育所の状況>

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
園数(園)	5	5	5	5	5	5
公立	3	3	3	3	3	3
私立	2	2	2	2	2	2
定員	555	555	555	555	555	555
入所児童数(人)	486	463	470	471	434	437
待機児童数(人)	0	0	0	0	0	0
待機児童数(旧定義)(人)	0	0	0	0	0	0
保育需要(人)	486	463	470	471	434	437
就学前児童数(人)	1,081	1,035	1,039	1,008	968	920
就園率(%)	45.0	44.7	45.2	46.7	44.8	47.5

資料:大淀町

#### (2) 各保育事業の状況

各保育事業の状況をみると、平成20年度の延べ利用者数は、延長保育が179人、一時預かり事業が1,422人となっています。

#### <各保育事業の状況>

(単位:人)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
延長保育(延べ利用者数)	204	201	211	203	179
一時預かり事業(延べ利用者数)	948	522	760	795	1,422

資料:大淀町

## 2. 幼稚園の状況

市内の公立幼稚園数は3園で、園児数は少子化を反映して減少傾向で推移しています。

### <町立幼稚園数の推移>

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
園数(園)	3	3	3	3	3	3
入所児童数(人)	123	131	135	123	114	96
定員	265	265	265	265	265	265

資料:大淀町

## 3. 小・中学校の状況

小学校の児童数は、平成17年度以降、若干の減少傾向で推移しており、平成21年度は1,141人となっています。一方、中学校の生徒数は平成16年度以降、減少傾向で推移し、平成21年度は546人となっています。

### <小学校児童数の状況>

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学校数(校)	5	5	3	3	3	3
総児童数(人)	1,193	1,198	1,163	1,158	1,156	1,141

資料:大淀町

### <中学校生徒数の状況>

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学校数(校)	1	1	1	1	1	1
総生徒数(人)	637	588	598	598	588	546

資料:大淀町

## 4. 学童保育の状況

学童保育の平成21年度の施設数は3か所で、登録児童数は171人となっており、経年で見ると平成18年度の232人をピークとして、平成21年度までに約60人減少しています。

### <学童保育の状況>

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
施設数(か所)	5	5	5	3	3	3
登録児童数(人)	172	217	232	180	167	171
1年生	54	80	72	66	68	63
2年生	52	62	86	52	58	64
3年生	37	43	53	57	36	41
4～6年生	29	32	21	5	5	3

資料:大淀町

## 5. 児童館（児童センター）の状況

児童館（児童センター）の状況を見ると、平成21年度で1か所となっています。

### <児童館（児童センター）の状況>

(単位:か所)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
施設数	1	1	1	1	1

資料:大淀町

## 6. 地域子育て支援拠点事業（センター型）の状況

地域子育て支援拠点事業を見ると、平成21年度で1か所となっています。

### <地域子育て支援センターの状況>

(単位:か所)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
地域子育て支援拠点事業	1	1	1	1	1	1

資料:大淀町

## 第4節 相談支援サービスの状況

### 1. 家庭児童相談の相談状況

家庭児童相談の相談状況をみると、平成20年度で22件となっています。

相談内容の内訳では、平成20年度で「虐待」に関するものが14件と最も多くなっています。

#### <家庭児童相談の相談状況>

(単位：件)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
相談件数	10	13	17	22

資料：大淀町

#### <相談内容の内訳>

(単位：件)

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
性格・生活習慣病等		0	1	6	3
知能・言語		0	0	0	0
学校生活等	人間関係	0	0	0	0
	不登校	0	0	0	2
	その他	2	0	0	0
非行		0	0	0	0
家族関係	虐待	1	3	5	14
	その他	0	0	0	0
環境福祉		0	0	0	0
心身障がい		1	9	2	2
その他		6	0	4	1
合計		10	13	17	22

資料：大淀町



## 第5節 母子保健事業の状況

### 1. 母子保健事業の状況

各乳幼児健康診査の実施状況をみると、「3歳児健康診査」の受診率が8~9割で推移していますが、その他の乳幼児健康診査で受診率が9割以上と高い受診率で推移しています。

#### <乳幼児健康診査の実施状況>

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
4ヵ月児 健康診査	受診児(人)	173	158	140	127	146	153	151	129
	受診率(%)	93.0	95.2	94.6	93.4	96.7	99.4	98.7	97.7
10ヵ月児 健康診査	受診児(人)	145	165	141	143	135	141	146	143
	受診率(%)	94.2	94.8	93.4	98.6	91.2	92.2	98.0	97.9
1歳6ヵ月児 健康診査	受診児(人)	160	164	171	147	145	143	157	141
	受診率(%)	92.5	93.7	93.4	91.3	93.5	89.9	95.7	97.2
3歳児 健康診査	受診児(人)	162	193	158	161	161	153	130	142
	受診率(%)	81.8	91.0	83.6	83.9	84.7	90.0	85.0	85.0

資料:大淀町

## 第6節 経済的支援の状況

### 1. 乳幼児医療費の支給状況

乳幼児医療費の支給状況をみると、平成21年度で859人となっています。

なお、平成17年度に対象年齢を3歳未満までから小学校就学前までに引き上げを行っているため、前年度と比較して大幅に増加しています。

#### <乳幼児医療費の支給状況>

(単位：人)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
受給者数	471	954	1,009	937	894	859

資料：大淀町

### 2. 児童手当の支給状況

児童手当の支給状況をみると、平成21年度で1,261人となっています。

なお、平成18年度に対象年齢を小学校第3学年修了前から小学校修了前までに引き上げを行いました。

#### <児童手当の支給状況>

(単位：人)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
受給者数	1,019	1,022	1,282	1,296	1,291	1,261

資料：大淀町

### 3. 児童扶養手当の支給状況

児童扶養手当の支給状況をみると、平成21年度で208人となっています。

#### <児童扶養手当の支給状況>

(単位：人)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
受給者数	195	195	202	219	221	208

資料：大淀町

## 第7節 アンケート調査からみる現状

---

### 1. アンケート調査の概要

調査の目的	この調査は、平成21年度に「大淀町次世代育成支援行動計画」を見直し、後期計画を策定するにあたり、子育て世帯の生活実態や子育て支援に関するご要望・ご意見などを把握するため実施しました。
調査設計	調査対象地域：大淀町全域 調査対象：大淀町内在住の就学前児童をお持ちの保護者 （就学前児童用調査） 大淀町内在住の小学生児童をお持ちの保護者 （小学生児童用調査） 調査期間：平成21年1月26日～2月16日 調査方法：郵送配布・郵送回収

調査種類	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童用調査	772	331	42.9%
小学生児童用調査	513	219	42.7%
合計	1,285	550	42.8%

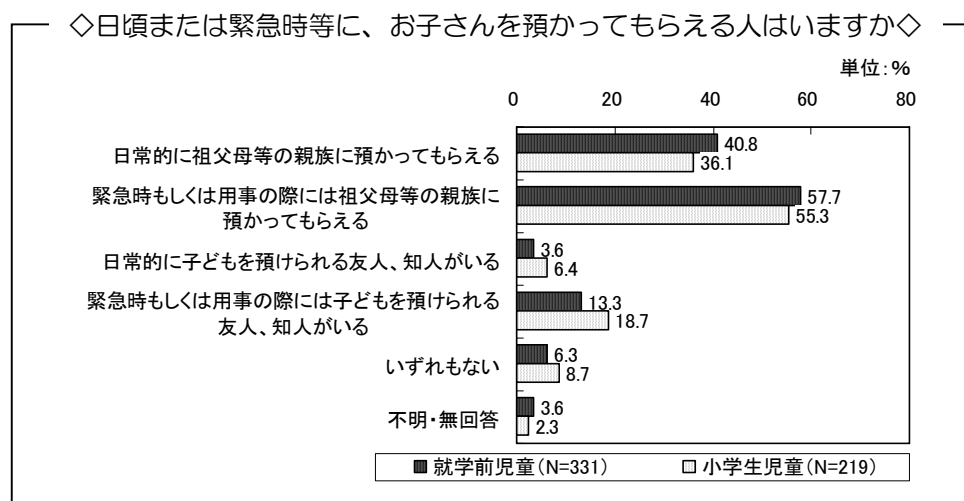
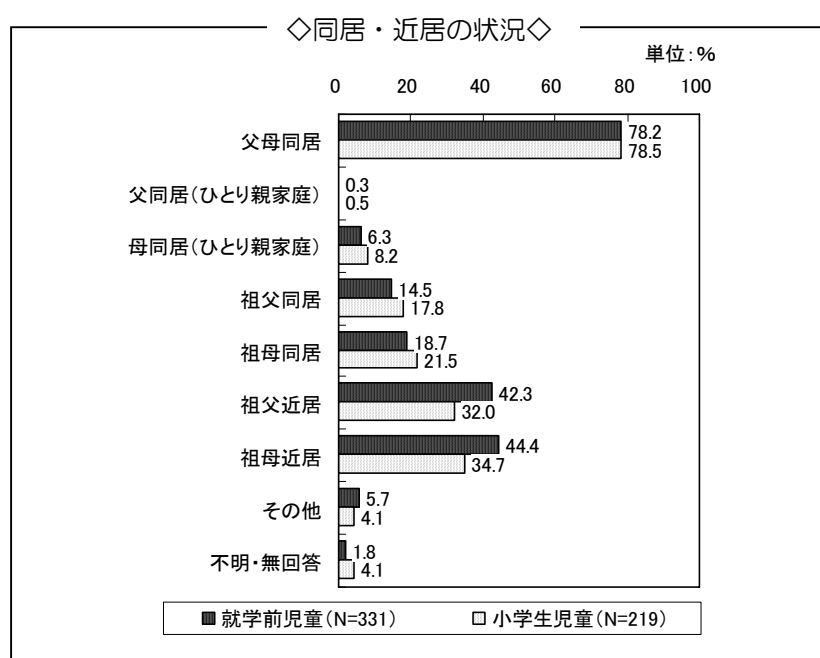
※1世帯につき、調査票を1部配布したため、調査対象児童数と配布数は異なります。

## 2. アンケート調査結果の概要

### (1) 家族の状況

家族の状況についてみると、同居・近居では「父母同居」が就学前児童、小学生児童ともに8割弱となっています。また、就学前児童では「祖父近居」「祖母近居」がそれぞれ4割となっています。

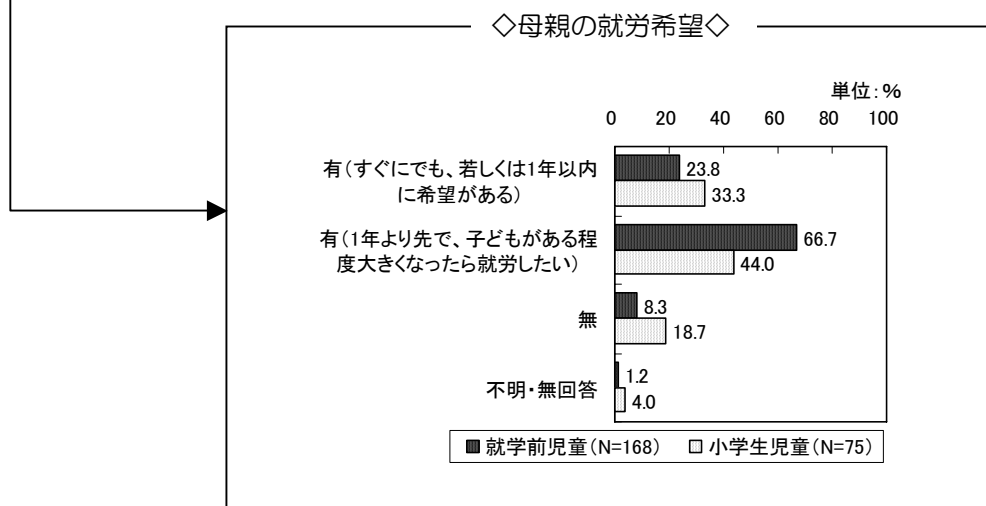
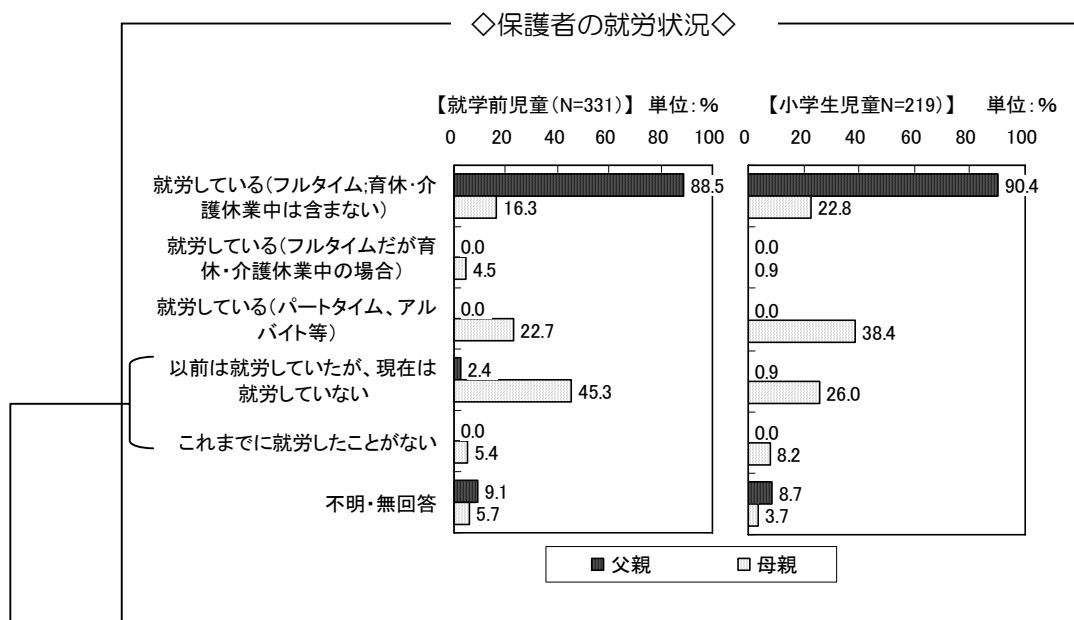
日頃または緊急時等にお子さんを預かってもらえる人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が就学前児童、小学生児童ともに5割となっています。



## (2) 保護者の就労状況

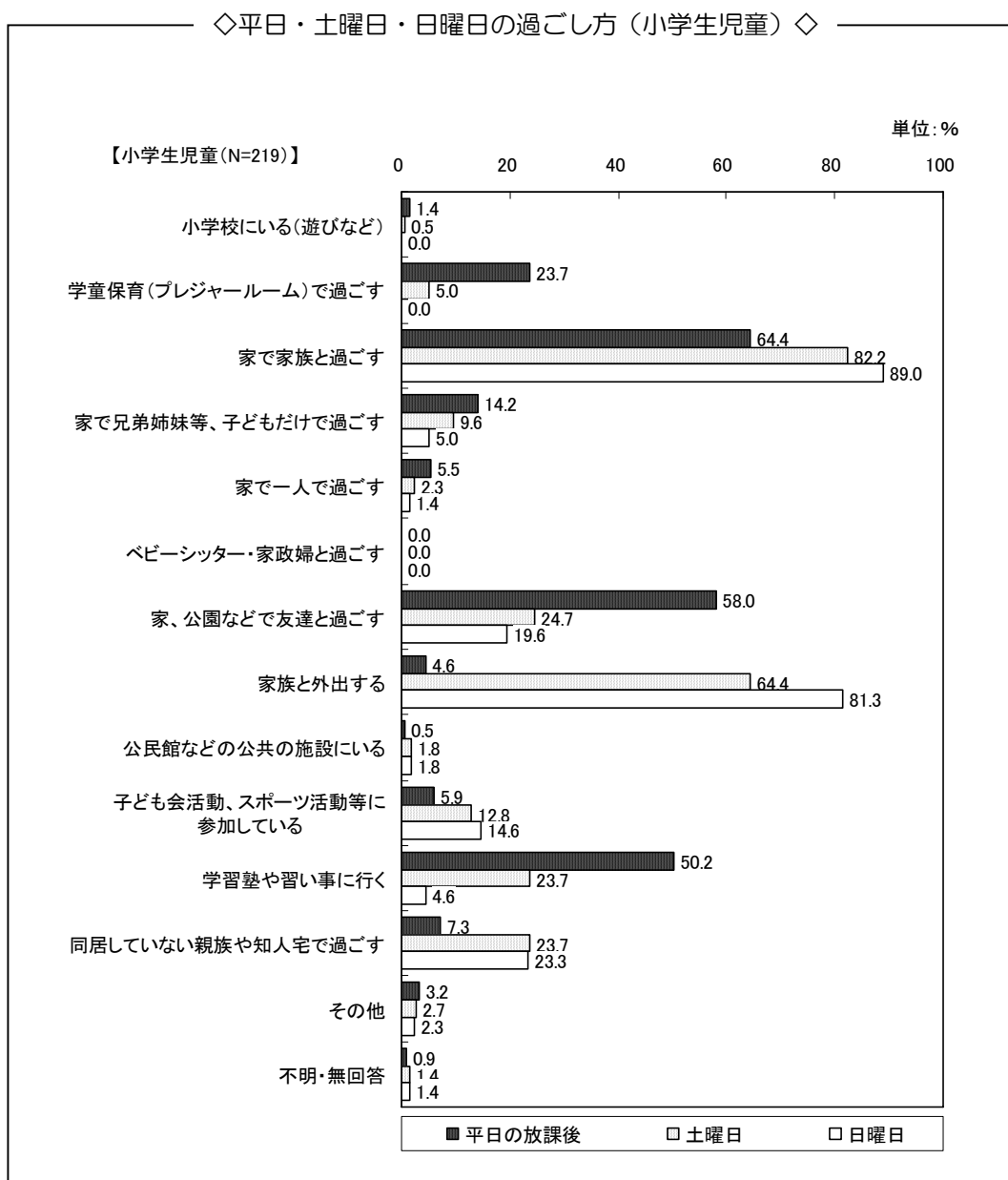
保護者の就労状況についてみると、父親では「就労している（フルタイム；育休・介護休業中は含まない）」が就学前児童、小学生児童ともに9割前後となっています。また、母親では就学前児童で「以前は就労していたが、現在は就労していない」、小学生児童で「就労している（パートタイム、アルバイト等）」がそれぞれ4割前後となっています。

現在就労していない母親の就労希望についてみると、『有』（「有（すぐにも、若しくは1年以内に希望がある）」「有（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」の合計）が就学前児童で9割、小学生児童が7割となっており、就学前児童の母親の方が就労希望が高くなっていることがうかがえます。



### (3) 子どもの放課後や休日等の過ごし方

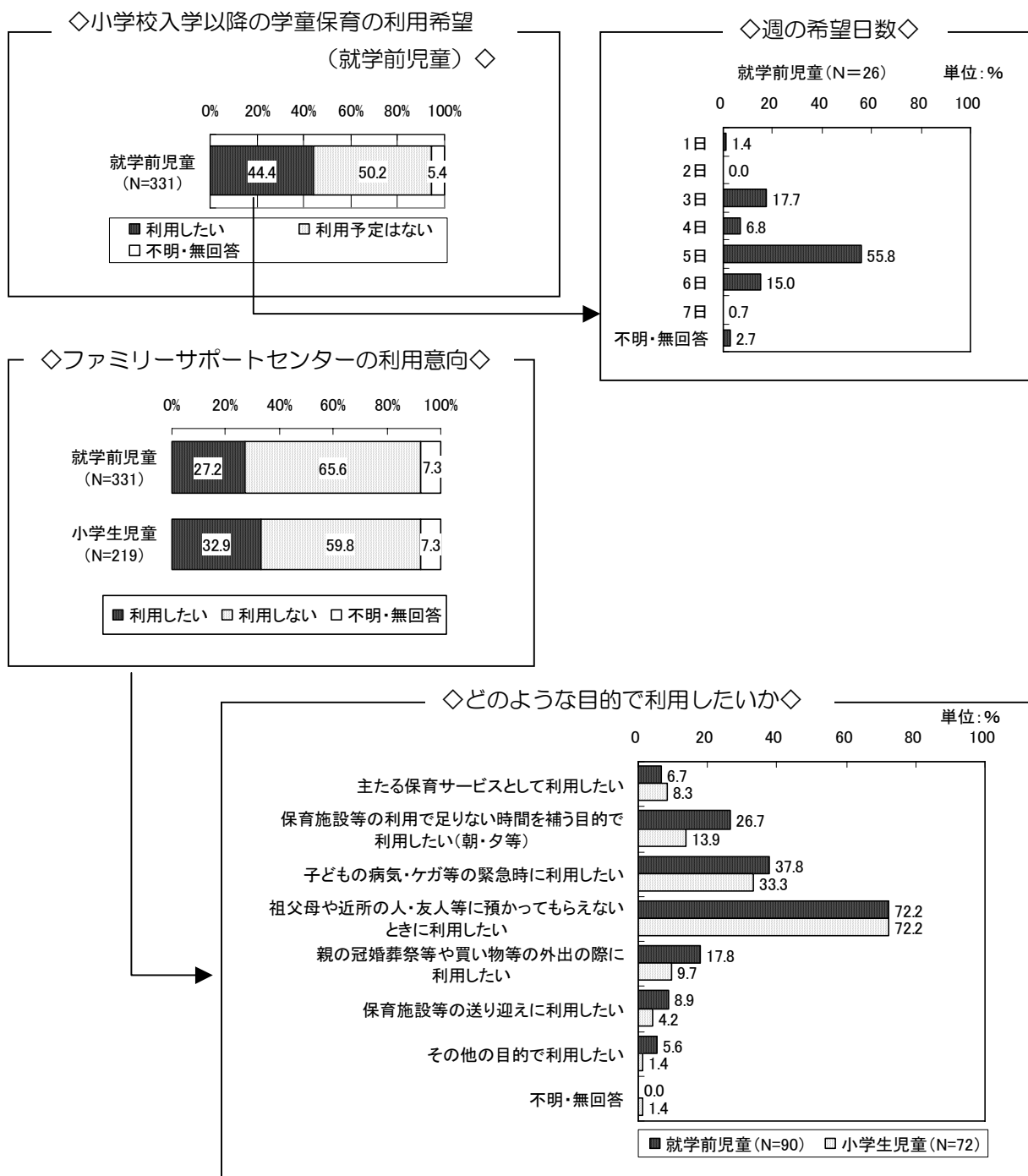
子どもの放課後や休日等の過ごし方についてみると、平日では「家で家族と過ごす」「家、公園などで友達と過ごす」「学習塾や習い事に行く」が5割以上となっています。土曜日・日曜日では「家で家族と過ごす」「家族と外出する」が6割以上となっており、休みの日は友人よりも家族と過ごす子どもが多いことがうかがえます。



#### (4) 保育サービスの利用希望

保育サービスの利用希望で、小学校入学以降の学童保育の利用希望についてみると、「利用したい」が4割となっており、週の希望日数は「5日」が5割となっています。

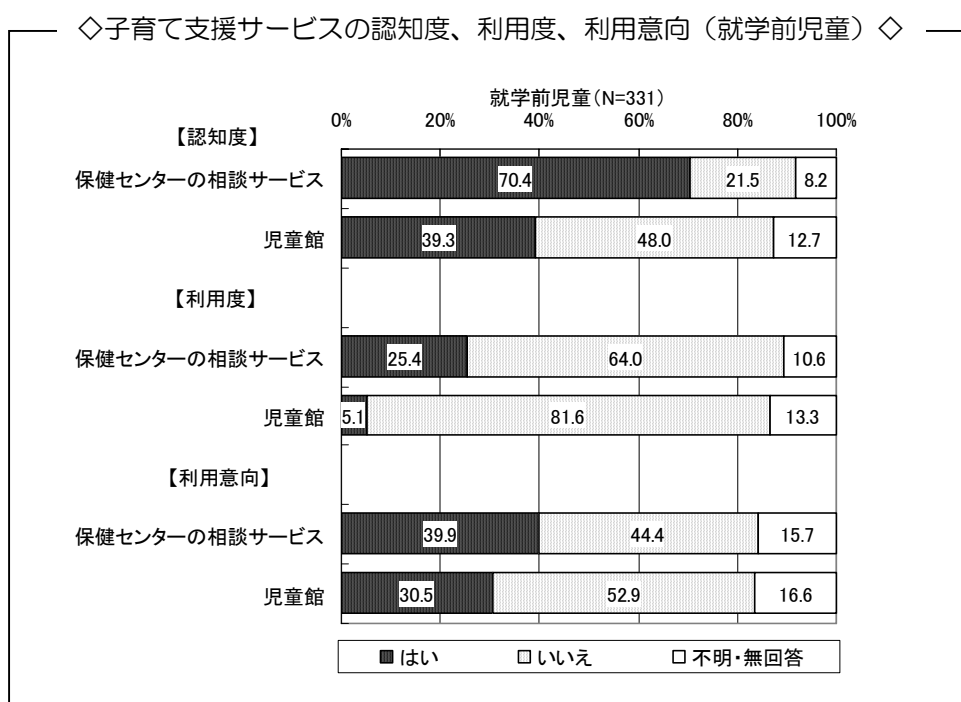
ファミリーサポートセンターの利用意向についてみると、「利用したい」が就学前児童、小学生児童それぞれ3割前後となっています。また、どのような目的で利用したいかでは「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用したい」が就学前児童、小学生児童ともに7割となっています。



### (5) 子育て支援サービスの認知度、利用度、利用意向

子育て支援サービスの認知度についてみると、『保健センターの相談サービス』で「はい（知っている）」が7割となっていますが、利用度では、「はい（利用したことがある）」が2割、利用意向では、「はい（利用意向がある）」が約4割となっています。『児童館』では「はい（知っている）」が4割となっていますが、利用度では、「はい（利用したことがある）」が1割をきっており、利用意向では、「はい（利用意向がある）」が約3割となっています。

このことから、サービスの利用者が今後増えるよう、より内容を充実させることが重要であると思われます。





## (6) 仕事と子育ての両立について

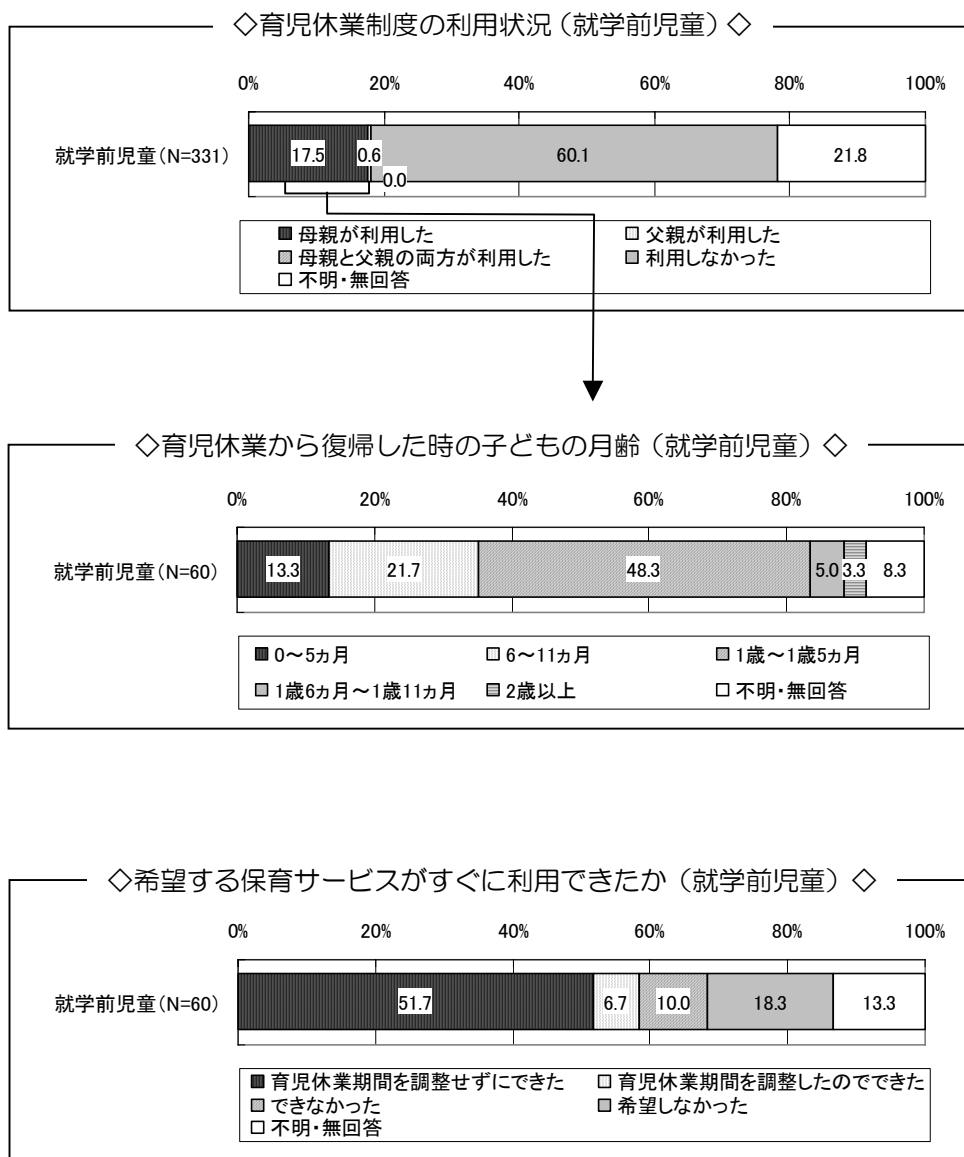
### ① 育児休業制度の利用状況

母親または父親の育児休業制度の利用状況についてみると、「利用しなかった」が6割を占めています。また、「母親が利用した」が2割弱となっています。

また、育児休業から復帰した時の子どもの月齢についてみると、「1歳～1歳5ヵ月」が約5割と半数を占めています。

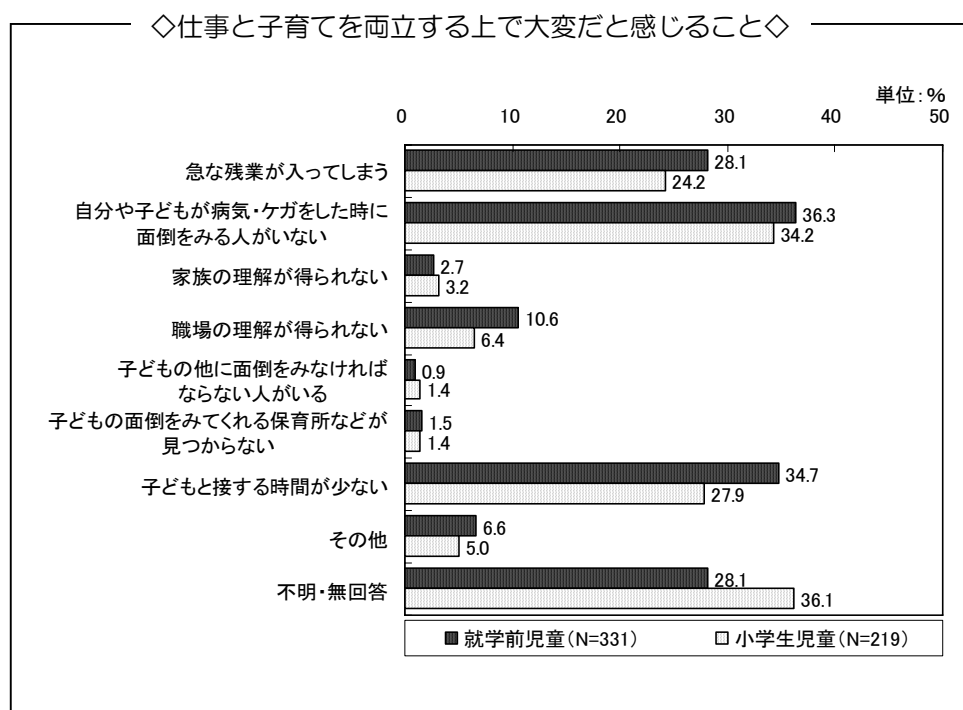
育児休業明けに希望する保育サービスがすぐに利用できたかについてみると、「育児休業期間を調整せずにできた」が5割となっています。

このことから、育児休業制度の利用促進に向け、企業と連携しつつ、就労環境の整備を図っていくことが大切であると思われます。



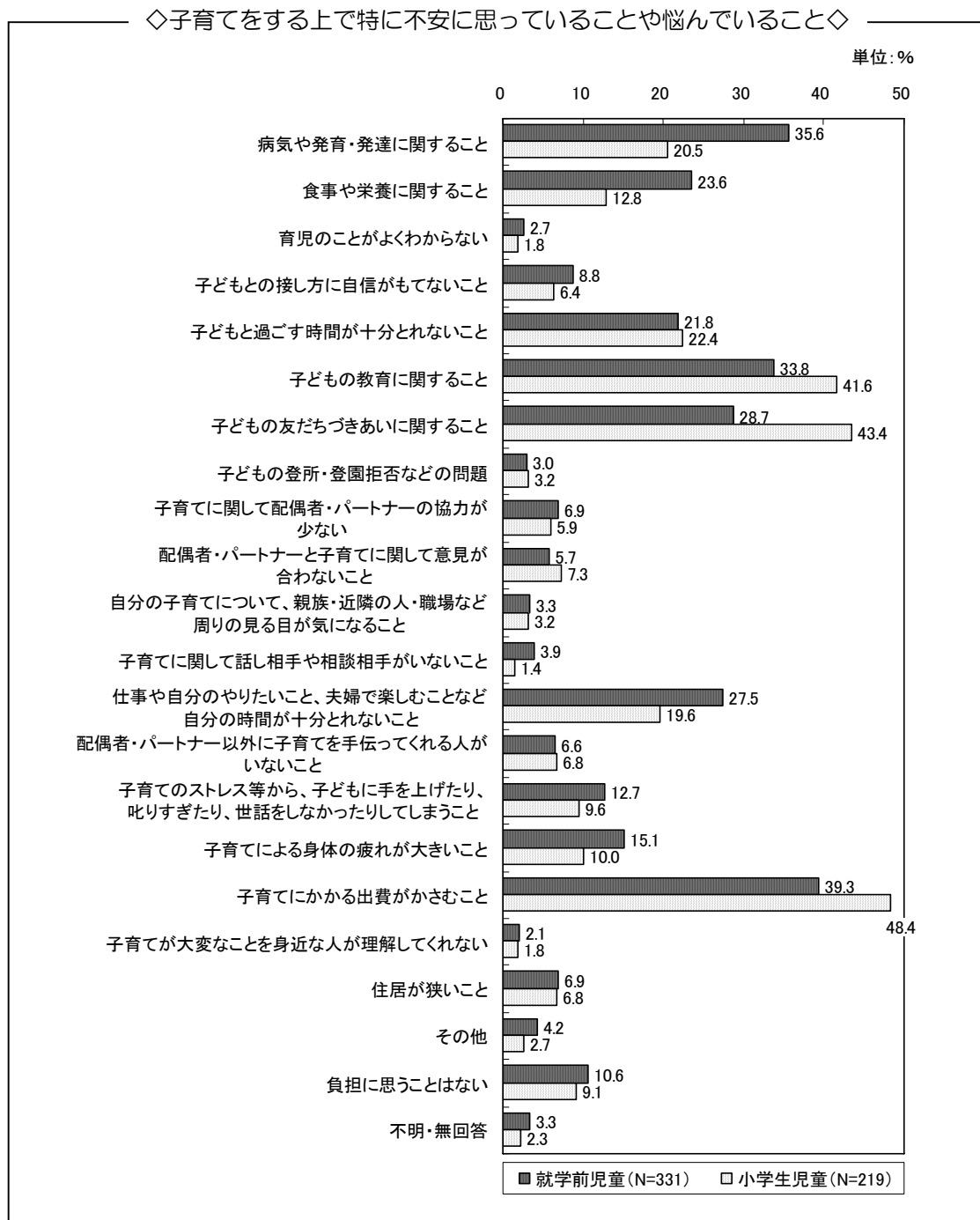
## ② 仕事と子育てを両立する上で大変と感じること

仕事と子育てを両立する上で大変と感じることについてみると、「自分や子どもが病気・ケガをした時に面倒をみる人がいない」が就学前児童、小学生児童ともに3割となっています。また、「子どもと接する時間が少ない」「急な残業が入ってしまう」などから、子どもとの時間を確保することが難しいと感じている保護者の多い状況がうかがえます。



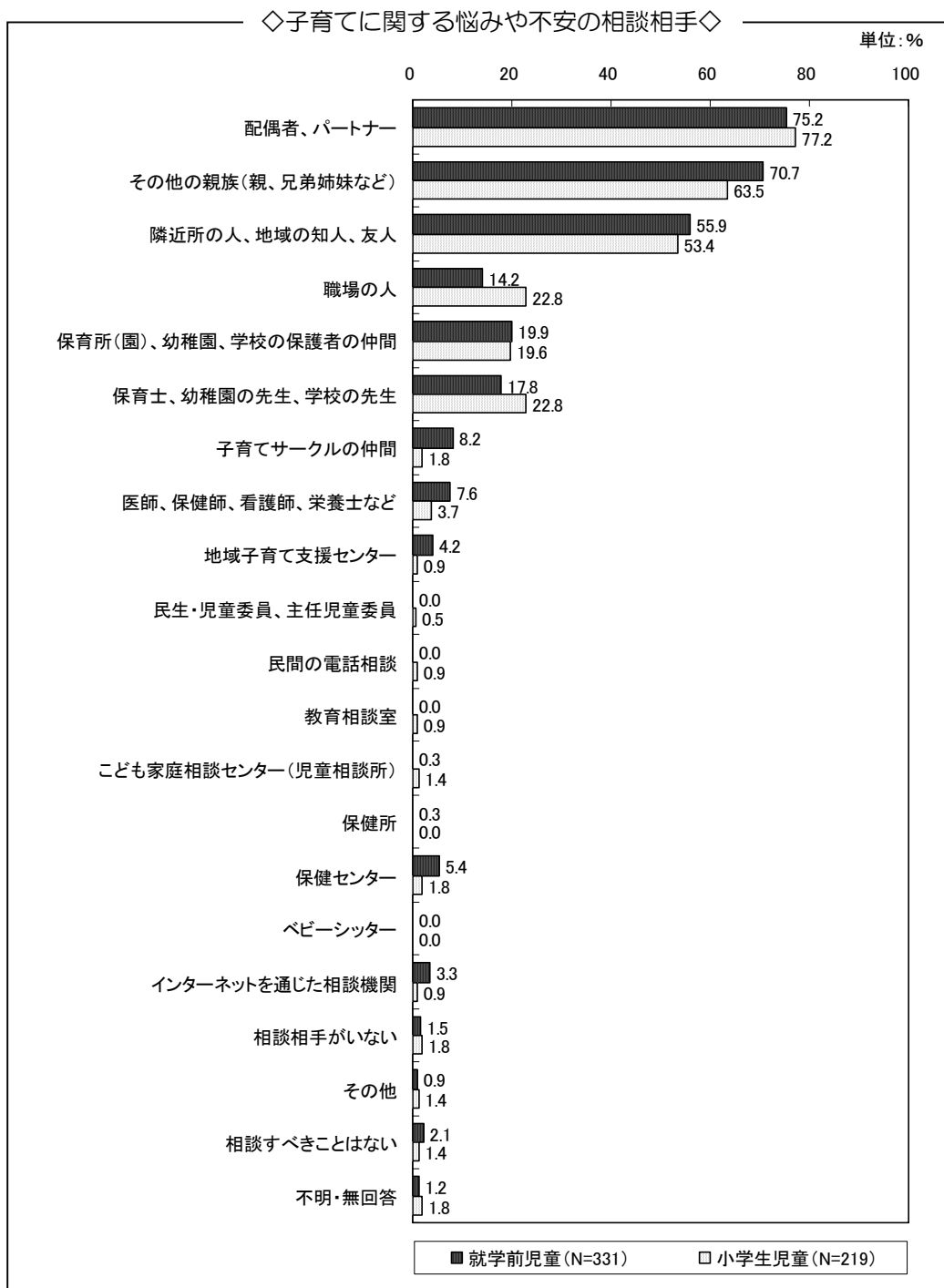
### ③ 子育ての悩みについて

子育てをする上で特に不安に思っていることや悩んでいることについてみると、就学前児童では「子育てにかかる出費がかさむこと」「病気や発育・発達に関すること」「子どもの教育に関すること」、小学生児童では「子育てにかかる出費がかさむこと」「子どもの友だちづきあいに関すること」「子どもの教育に関すること」が3割以上となっています。このことから、経済的な面のほかに就学前児童では子どもの健康、小学生児童では子どもの人間関係など年齢によって悩みに違いが出てくる状況がうかがえます。



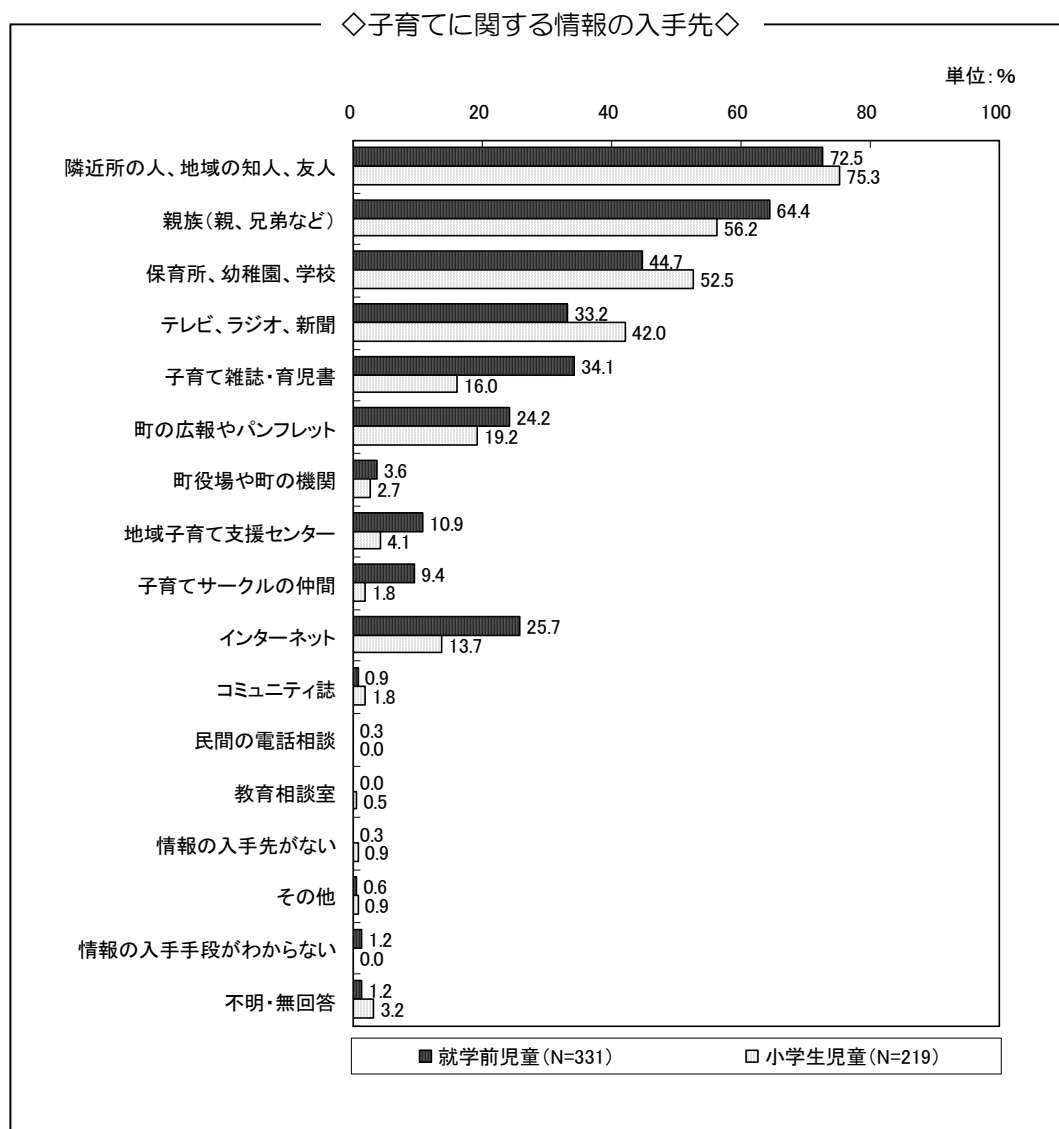
#### ④ 子育てに関する悩みの相談相手

子育てに関する悩みの相談相手についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「配偶者、パートナー」「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」が6割以上となっています。



### ⑤ 子育てに関する情報の入手先

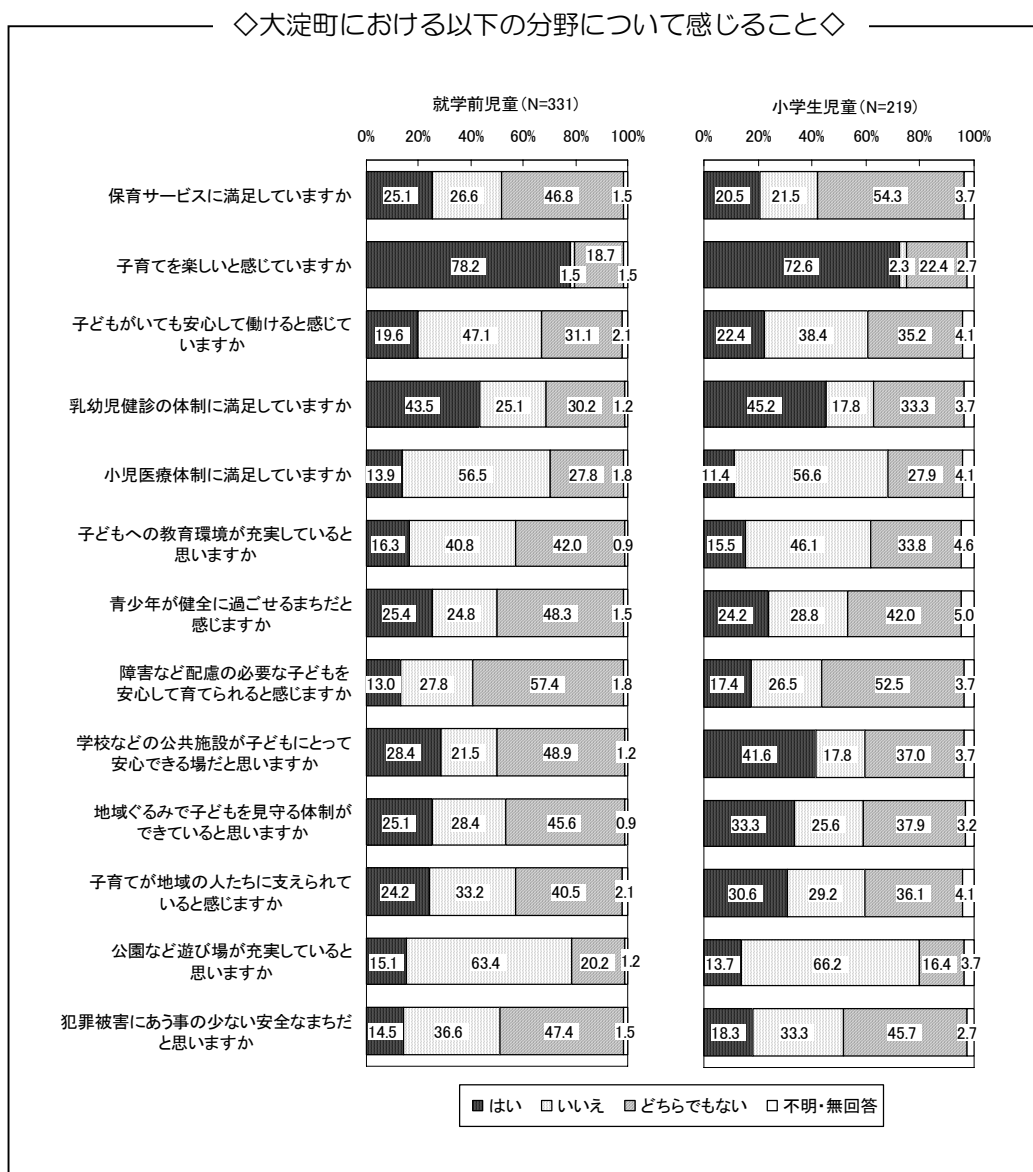
子育てに関する情報の入手先についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「隣近所の人、地域の知人、友人」が7割となっています。また、「インターネット」の利用が就学前児童は2割なのに対し、小学生児童は1割となっています。



## (7) 子育て施策について

### ① 大淀町の子育て事業等の評価について

大淀町における子育て事業等の評価についてみると、就学前児童、小学生児童ともに『子育てを楽しんでいると感じていますか』で「はい」が7割を占めています。一方で、『小児医療体制に満足していますか』『公園など遊び場が充実していると思いますか』が就学前児童、小学生児童ともに「いいえ」が5割以上となっています。



## ② 子育て支援の充実を図ってほしいと期待すること

大淀町に対して、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待しているかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに、「公園等屋外施設の整備」「安心して医療機関を利用できる体制の整備」が6割となっています。このことから、先ほどのアンケート結果と合わせてみると、医療体制の充実、子どもの居場所等の確保などに期待をしていることがうかがえます。

